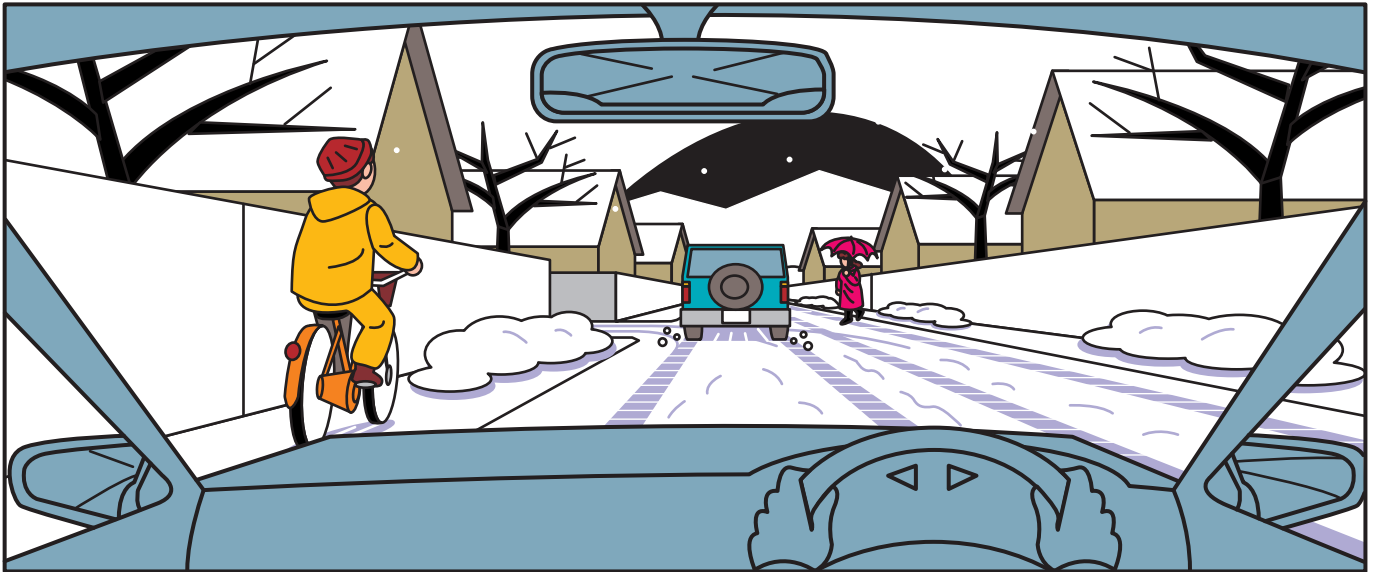


# 2月の安全運転のポイント 平成25年2月号

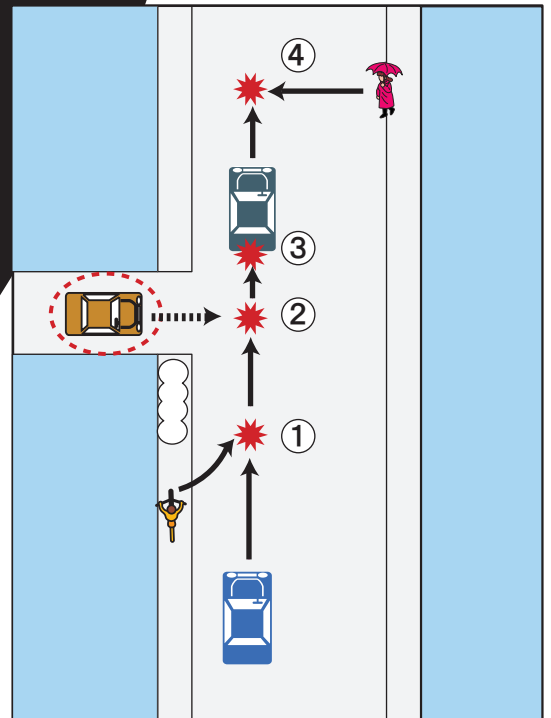
雪道にはさまざまな危険が潜んでいます。そこで今回は、運転席から見た交通場面のイラストを基に、雪道の危険予測運転について考えてみましょう

小雪の舞う雪道を走行しています。この場面にはどのような危険があるでしょうか。



## 主な危険の内容

- この場面での主な危険を4つ挙げてみます。
- ① 前方左側の歩道を通行している自転車と衝突する危険があります。  
かたまりを避けるために急ブレーキを踏む可能性があります。  
※スリップして車道に出る危険があります。また、急ブレーキで倒れる可能性もあります。
  - ② 前方左側の脇道から車が横断してくる危険があります。  
※積雪のために路面が濡れているため、急ブレーキを踏んでも停止しようとしても止まらなくなる可能性があります。
  - ③ 前方右側の歩行者が道路を横断してくる危険があります。前車が停止する。  
※歩行者がいなくても、歩行者がいないように見えても、急に横断してくる可能性があります。急ブレーキを踏む可能性があります。
  - ④ 前車の通過後に、歩行者が道路を横断してくる危険があります。  
雪道はスリップしやすい道路です。また、歩行者は雪道で走りにくい道路ですが、歩行者や自転車は歩行者や自転車と同様にたいへん通行しにくい道路です。そのことを十分に理解しておくことが大切です。





## 事故を防止するための危険予測のポイント

### 自転車が急に進路を変更してくる

雪道での自転車は不安定で、スリップして転倒することがよくあります。そのため走りやすいところを選んで走行する傾向がみられ、歩道や車道の左端が雪で通行しにくい場合には、後方の確認もせずに車道の中央に寄ってることがあります。

また、雪にタイヤをとられて滑るだけでなく、車道にできたわだちこぼれにタイヤをとられて、バランスを崩したり転倒することがあります。

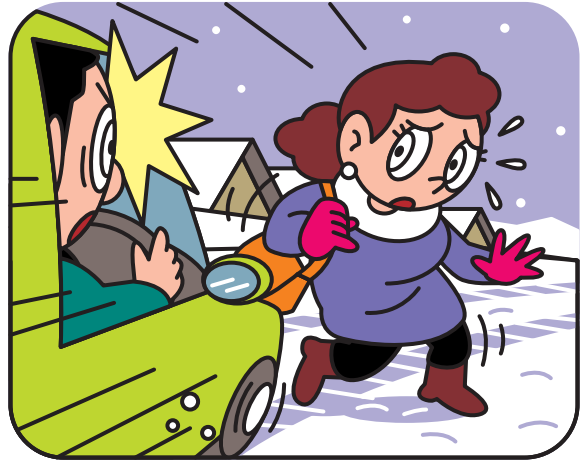
側方や前方を自転車が走行しているときは、スピードを落とし自転車の動きに十分注意しましょう。



### 歩行者の歩行速度が遅くなる

積雪した路面を歩くとき、歩行者の注意は足元に向いてしまいます。そのため周囲に対する注意が薄れがちで、車の接近に気づくのが遅れることがあります。雪道に足をとられた歩行者が転倒することもよくありますから、側方を通過するときはスピードを落とすとともに、十分な側方間隔をとりましょう。

また、路面が滑りやすいために歩く速度がかなり遅くなり、道路の横断に時間がかかります。信号機のある交差点の場合は、信号が赤になっても渡りきれないことがありますので、前方を歩行者が横断しかけているときは、横断に時間がかかるということを頭に入れて、スピードを十分に落として進行しましょう。



### 積雪路面は停止距離が長くなる

積雪路面では停止した前車に追突するという事故が多発します。また、赤信号の交差点で停止できずに交差点内に進入してしまったり、T字路で一旦停止しようとしたにもかかわらず手前で停止できずに交差道路に進入してしまうことがあります。

積雪路面がどのくらい滑りやすいのかについては、タイヤと路面状態によって異なります。したがって、「これくらいで止まれるだろう」と安易に考えるのはたいへん危険です。

雪道での停止距離は思っている以上に長いかもしれないと考えて、常に十分な車間距離をとって走行しましょう。



「ご相談・お申込先」

安心と安全で皆様の未来を支える

総合保険代理店 株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド

TEL 03-3582-4511 FAX 03-3582-4512